健康豆知識

酒は百薬の長？

私は6年前に発症した食道がんの経過を追うために毎年胃カメラとＣＴ検査を繰り返してきた。3か月前に最初の場所とは違う所に早期の食道がんが出現していることが分かった。この頃は一つのがんになった人がほかのがんにかかることが増えてきた。多くの場合最初のがんの経過観察中に発見されるので早期に見つかることが多い。私も初期の段階で発見されたので、内視鏡手術で済んだ。同じ臓器に発生する場合を多発がんと呼び、ほかの臓器に発生した場合を重複がんと呼ぶ。私は7年前には前立腺がんもやっているので、重複がんで多発がんでもあり併せて多重がんである。がんを発生させるには遺伝だけでなく危険因子がある。私はタバコを吸っていた。毎日20本以上30年以上は吸い続けていた。20年も前にやめたというのにいまだにタバコの危険因子の射程から解放されていないのである。それに食道がんの場合、アルコールも危険因子である。最近の報告によると飲酒者の食道がん再発率は非飲酒者の２倍であるという。そう遠くない昔には「酒は百薬の長」ということわざが通用した。最近ではタバコと同じで、酒は少量でも危険因子であることが分かってきた。

愛知淑徳大学健康医療科学部 教授
愛知淑徳大学健康相談室 室長
愛知淑徳大学クリニック糖尿病内科 医師
井口 昭久